鳥取県における活動と 地域診療連携における課題

2025年第1回全国てんかん対策連絡協議会

鳥取大学脳神経小児科

岡西 徹

鳥取県

人口	推計てんかん人口
総人口531,000人	3,300人
0-14才人口：63,000人	500人
15才以上人口：468,000人	2,800人

鳥取大学医学部附属病院

鳥取大学医学部附属病院(てんかん診療拠点機関)

鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業

沿革と組織

- 鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業として2015年より運営開始
- 年間60万円の支援
- 脳神経小児科・脳神経内科・精神科・脳神経外科（山陰労災病院）が参加
- てんかん診療支援コーディネーター2名（看護師経験者）を配置

鳥取大学医学部附属病院(てんかん診療拠点機関)
鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業

事業概要 | 活動案内 | てんかんとは | 相談 | 研修

鳥取県のとんかんの相談

てんかん患者が適切な治療を受けられる鳥取県地域ネットワーク

電話での相談
0859-38-7504
【月・木 13:00~16:00 / 火・金 10:00~13:00】

患者様、ご家族様、学校や医療・福祉関係のかたもお気軽にご相談ください。
てんかん講習のご要望なども受け付けています。

お知らせ [お知らせ一覧 >](#)

2025-06-19 日本てんかん協会鳥取県支部（NPO法人あかり広場）から「ヒアウワンセッション」のお知らせ

閲覧件数は3000-4000件/月

事業内容

患者相談

- 2024年度は合計11件（近年減少傾向）
- 相談者：患者ご本人（5件）・ご家族からの相談（2）・医療従事者（1）・行政/福祉/教育関係者からの相談（4）
- 内容（重複あり）：病気のことについて（5）・セカンドオピニオンと紹介（5）・紹介（2）・かかりつけ医について（2）など
- 対応：話を聴く（3）・鳥大への紹介（3）・専門医への紹介（4）・他医療機関への紹介（3）

診療ネットワーク

- 11の二次医療機関と連携を結んでいる
 - 鳥取医療センター、鳥取赤十字病院、鳥取生協病院、上田病院、鳥取県立厚生病院、野島病院、米子医療センター、山陰労災病院、養和病院、博愛病院、境港総合病院

- 1. 米子医療センター
- 2. 山陰労災病院【1】
- 3. 養和病院
- 4. 博愛病院
- 5. 境港総合病院

- 1. 鳥取医療センター【1】
- 2. 鳥取赤十字病院
- 4. 鳥取生協病院
- 5. 上田病院

- 中部地区 (7)
- 病院 (4)
- 医院・クリニック等 (3)

- 西部地区 (2 3)
- 病院 (12)
- 医院・クリニック等 (11)

- 1. 鳥取県立厚生病院
- 2. 野島病院
- 3. 鳥取県立中部療育園【1】

- 東部地区 (2 2)
- 病院 (10)
- 医院・クリニック等 (12)

鳥取大学医学部附属病院

【3】

- てんかん診療拠点機関
- てんかん二次診療病院

てんかん患者
対応医療機関

事業内容

研修会（2024年度）

- てんかん治療医療連携研修会（医師）：てんかんの基礎と脳波の読み方（10/10）
- てんかん治療医療連携研修会（医師）：てんかんの基礎知識（2/17）

普及啓発活動（2024年度）

- 市民公開講座（年度ごとに医師・招待者と異なる）：加納塩梅先生（講談師・てんかん患者・看護師）「病気だって友達」（2/16）米子コンベンションセンター
- 啓発パンフレットの作成と配布：保育施設等公共施設に向け、看護師向け
- 教員向け講座（オンライン）：てんかんってどんな病気？（8/2）
- パープルデーライトアップ：米子駅をライトアップ

パープルデー (3/26) ・ 公開講座 (2/16)

ひとりぼっちにしない
てんかんをもつ人を、

Purple Day

てんかん啓発キャンペーン

ライトアップ期間
3月24日(月) ~ 3月31日(月)

“てんかんをもつ人を、ひとりぼっちにしない”
そんな想いをこめて、みんなで紫色のものを身につけて過ごす日

◎鳥取駅前風紋広場 18:00~23:00
◎倉吉病院 18:00~22:00
◎米子コンベンションセンター 18:00~22:00
◎米子駅前米ツ子合掌像 17:00~23:00

3月26日パープルデーとは?
カナダに住む一人の女の子、キャンディー・メーガンさんが始めたこのキャンペーンは、いまや世界中に賛同の輪が広がっています。この日、世界各国の人が、てんかんをもつ人への応援のメッセージを込めて「紫色のもの」を身につけます。また、講演会や音楽イベントのように皆が楽しみながらてんかんへの理解を深められるようなイベントが各地で開催されています。鳥取県では、関係医療機関と協力し、上記施設等をテーマカラーである紫色にライトアップ致します。
なお、パープルデーは、北米のAnita Kaufmann財団が運営しており、日本では現在は「一般社団法人Purple Day Japan」が普及活動を展開しています。世界各国でのパープルデーキャンペーンの取り組み状況等、より詳細な情報はパープルデー公式サイトをご覧ください。

鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業

【公式】米子コンベンションセンター (BIGSHIP)
@bigship_yonago

毎年3月26日は「パープル・デー」

米子コンベンションセンターでは普及啓発の応援として下記の期間、パープルライトアップを実施します。

<点灯期間>
3月24日(月)~3月31日(月) 18:00~22:00

#てんかん #パープルデー

午後6:57 · 2025年3月24日 · 2,269 件の表示

鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業 市長公開講座
てんかんや障がいについてもっと理解しよう

参加無料

会場
米子コンベンションセンター 小ホール

令和7年
2.16 (日)
13:00-15:30

参加無料・事前申し込み不要

創作講演「病気だって友達」

講演者 加納 塩梅 氏 (加納 佳代子氏)

プロフィール
千葉大学教育学部特別教員養成課程卒業、筑波大学大学院教育研究科カウンセリング専攻よりハビリテーションコース修了。現在は、東京都下の精神科病院の看護部長。日本てんかん協会(波の会)千葉県支部事務局長を務める。2006年より道楽舞芸塾入塾し塩井琴梅、塩井琴福に師事。舞芸看護師・加納塩梅(かのうあまばい)として活動。また、てんかん当事者として創作講演でてんかん啓発活動を行っている。

病いや障がいとともに生きていくための考え方
「講演」で、楽しく、私らしく、社会の誤解を転換したい

加納塩梅のてんかん小囀チャンネル
ご視聴はこちらから→

主催：鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業(鳥取大学医学部附属病院内)
後援：鳥取県教育委員会 公益社団法人鳥取県医師会
お問い合わせ：↓↓↓↓↓↓↓

☎ **0859-38-7504** 【受付時間】 月・木 13:00~16:00
火・金 10:00~13:00

事業内容

研修参加（2024年）

- てんかん診療支援コーディネーター研修会（7/21）

会議

- 鳥取県てんかん治療医療連携協議会（8/1）：オンラインによる委員と県職員との会議

委員

委員一覧(11名)

氏名 職業(役職)

機関長	前垣義弘	医師(鳥取大学医学部脳神経小児科教授、てんかん専門医)
委員長	岡西徹	医師(鳥取大学医学部脳神経小児科准教授、てんかん専門医)
委員	吉岡伸一	医師(鳥取大学名誉教授、てんかん専門医)
同	植田俊幸	医師(鳥取県立厚生病院精神科)
同	小林一義	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障害福祉課長
同	山根康暉	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障害福祉課精神保健担当
同	原田豊	医師(鳥取県立精神保健福祉センター所長)
同	藤井秀樹	医師(西部総合事務所福祉保健局/米子保健所長)
同	足羽泉枝	看護師(日本てんかん協会鳥取支部代表)
同	渡部恵子	NPOあかり広場代表 日本てんかん協会鳥取支部
同	渡邊耕一郎	NPOあかり広場職員

てんかんコーディネーターの役割と課題

- 現在2名（看護師資格有・事務を兼任）
- 鳥取大学医学部附属病院内（脳とこころの診療連携支援室）に設置された相談室に在室
- 非常勤(パートタイム) で月・火・木・金曜日の13時～16時
- 相談事業：電話相談が主体だが希望があれば面談も行う。
- その他事務仕事：研修会・会議のマネジメントなど全般

医療連携

てんかんケアに関わる諸問題 ■ 運転免許 ■ 事故 ■ 救急 ■ 就労 ■ 就学 ■ 授業継続 ■ 発作再発 ■ 初発診断

※小児神経科専門医・神経内科専門医・脳神経外科専門医・精神科専門医・てんかん専門医

鳥取県のてんかん専門医

杉浦千登勢	中部療育園（小児科）
吉岡伸一	定年退職（精神科）
前垣義弘	鳥取大学医学部 脳神経小児科（小児科）
金井創太郎	鳥取大学医学部附属病院（小児科・米国留学中）
岡西 徹	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科（小児科）
太田健人	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科（小児科）
荒井勇人	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科（小児科・独国留学中）
近藤慎二	鳥取県済生会境港総合病院 脳神経外科（脳外科）
稲垣真澄	鳥取県立鳥取療育園（小児科）

殆どが大学の脳神経小児科の小児科医

脳神経内科ゼロ

若手の脳外科医・精神科医（鳥大）が専門として志望で勉強中

事業として

現状の問題点

- コーディネーターの勤務形態と人数の制限
 - 非常勤で平日午後の限られた時間のみの対応。対応範囲や活動可能性に制約。
将来的な人員確保・後継者育成も課題
- 相談件数が減少傾向20/年→10/年程度と減少傾向
 - 対策→HPのデザイン改善，相談窓口が分かりやすいようにしたがあまり変わらず。相談したい人自体が減っている可能性
- 教育・保育・福祉連携の弱さ
 - 教職員や保育者に対するてんかん教育・対応訓練の普及不足福祉・就労支援機関との連携体制が弱く、社会的自立支援が不十分
- 情報発信・啓発の課題
 - パープルデーや市民講座などは行っているが、若年層やSNS世代への訴求は弱い可能性外国人・多文化家庭への情報提供が不十分（多言語対応）
- 患者登録・疫学データの不在
 - 鳥取県におけるてんかん有病率や診療実態の正確なデータが未整備長期経過・予後・QOLを追う地域レジストリ的な仕組みの欠如

現状の問題点

診療として

- 専門医の不足
 - 小児科系の専門医しかほほいない状況
 - 大学での成人科のてんかん志望者に向けて勉強会の開催・脳神経小児科カンファレンス参加を行って指導している
- 地域間の格差中部・西部での医療資源偏在
 - 特に中部地区（例：倉吉市周辺）のてんかん医療対応施設・医師が少ない。アクセスに地域格差。
 - 移動困難な高齢者や障害児家庭への配慮：交通手段・付き添いが必要な家庭では通院が困難。遠隔診療の導入余地（鳥大で行っているが利用は少ない）
- てんかんセンターの不在
 - 手術は県外で行っている（大阪市総合・大阪公立大・広島大）
- トランジションが難しい
 - 大学の脳神経内科・精神科である程度受け入れてくれているが、あまり複雑なてんかんの方のトランジションが出来ない状況